

市民ギャラリーだより

No. 4
R8年3月

防府市文化協会 発行



防府市文化協会

会長 岡本早智子



市民ギャラリーは、まだ生まれて三年余ですが、「一度使ったら、来年も是非!」と思つて頂ける様なギャラリーになって来たようです。これはすべて、防府市民、そして、防府市文化協会会員の皆様のお蔭であると、心の底から感謝いたしております。

そして、また、毎年の様に使つて頂いている団体やグループの発表を見させて頂くと、必ずと言ってよいかと思いますが、その団体、グループが常に大切にしておられるものと同時に、新しい工夫や変化や進歩が見られます。これこそ、その団体の皆様様の熱心な活動の成果であり、このギャラリーが、小さいながらも、市民の方々の大切な生涯学習の館になって来ていることが分かり、私はとても嬉しく感じております。

どうぞ、これからも、防府市民ギャラリーをしつかり使つて頂き、他団体の発表にも、お気軽に足を運んで頂き、生涯現役で、楽しい日々を過ごしていただきたいと願っております。私も是非、そんな日々を過ごしたいと願っているところです。

「陶芸五十年記念展を開催して」

大井 正則
大井美智子

昨年、防府市文化協会よりご依頼頂き、市民ギャラリーにて「陶芸五十年記念展」を開催させて頂きました。企画の段階から、進め方などについて、何度も話し合いの場を設けて頂き、早い時期から順序立てて助言頂きましたので、不慣れながらも一つ一つ準備していくことが出来ました。適切なアドバイスとサポートには大変感謝いたしております。

会場設営と撤収の際には皆様のご協力があり、とても助かりました。

市民ギャラリーは、設備、備品も揃つていて可変的な機材のおかげで、自由な展示、配置が出来、使い易い会場でした。また、会期前から、文化協会の方からも宣伝、広報頂き、多くの方々にご来場いただいで交流できましたことは嬉しいことでした。

私達にとりまして、自分達の作陶活動を振り返る展示が出来、それを多くの方々にご覧頂けたということは、とても有意義で得難い経験となり、有難いことと感じています。



防府市教育美術展を開催して

防府市造形教育研究会 藤井 和俊

十二月三日から七日まで、アスピラート一階市民ギャラリーにて「防府市教育美術展」を開催いたしました。本展は、市内の幼保、小・中・高校、防府総合支援学校の子どもの造形活動の成果を一堂に展示・披露するものです。

本年度の大きな特徴は、「防府市美術展」との同時開催という新たな試みを行った点です。この同時開催による相乗効果は極めて大きく、例年以上に多くの方々にご来場いただくことができました。会場に並んだ子どもたちの瑞々しい感性あふれる力作は、来場された幅広い世代の方々の目に触れ、文化・芸術活動を身近に感じていただく貴重な機会となりました。

文化協会が運営する市民ギャラリーは、設備が整い、アクセスも良い素晴らしい発表の場です。このような場での発表は、子どもたちの次なる創作への意欲や励みになると確信しています。今後も本展が、子どもたちが表現する喜びを分かち合い、防府市の豊かな「まちづくり」に貢献できる企画として発展するよう努めてまいります。開催を支えてくださった皆様、そしてご来場くださった皆様に心より感謝申し上げます。



第一回シユシユ展

(防府市美術連盟 洋画の部 小品展) 開催を終えて

防府市美術連盟 副会長 石川 近利

二〇二五年五月三十日(金)～六月一日(月)まで、防府市地域交流センターアスピラート一階市民ギャラリーにおいて、防府市美術連盟洋画部会員により第一回シユシユ展を開催致しました。

防府市美術連盟に所属し、防府市美術展を中心に活動している会員より、防府市美術連盟の発表の場を増やすことで、美術・芸術に関心のある方々との交流を深めるための前向きな展開として、防府市美術展の規定により提出できない小品に光を当てることが趣旨として、洋画の部によりシユシユ展「フランス語でかわいい、すてきな」を開催致しました。

展示内容としては、出品者十九名により九十八点の作品が集まり、沢山の方々にご高覧頂き賑やかな開催となりました。出展に關して今回は洋画の部会員を対象と致しましたので絵画中心にはなりませんが、絵画の枠には限定せず、小品ならなんでも出品可能という自由な発表の場と致しました。本年も六月に第二回として開催を予定しておりますので、是非とも気軽に来場いただき、絵画鑑賞のひとつときをお過ごしください。

出展参加については防府市美術連盟への入会が必要となりますので、防府市美術連盟又は防府市文化協会へお問い合わせください。



朗読劇「さざなみ21」公演会

代表 津田百合子

昨年、市民ギャラリーにて初めて公演をさせていただきました。図書館での公開練習を経て、公民館等に出かけ、昔話や童話文学作品を台本にして、その言葉のもつ温かな物語を伝えてきました。防府市文化協会からのお誘いを受けての広い会場での初体験は少々高尚なライブ感がありました。

これからも内容は変わりませんが、見に来て下さる皆様にはますます感動を与えられる楽しいお話を選んで演じてゆきたいと思えます。実際見て！聴いて！一緒に参加(台本をもつて)して表現する楽しさも味わって戴いたらとも思っています。耳から聴く言葉に想像力をふくらませて楽しんで下さい。

演目の一部を紹介します。(今まで演じたものです)

- ・うさぎとかめ (徳地方言おきかえ話)
- ・かさこ地蔵
- ・三枚のお札
- ・雪女(小泉八雲)
- ・手ぶくろを買いに (新実南吉)
- ・百万回生きたねこ (佐野洋子)
- ・サーカスのライオンじんぎ
- ・あらしの夜に
- ・おにたのぼうし
- ・貧乏神(江戸小話)
- ・二十六夜まじり
- ・三匹ヤギのガラガラドン (北欧民話)
- ・三年とおげ (韓国民話)
- ・e t c .



池坊青年部花展を開催して

華道家元池坊防府支部

青年部長 原田 由美

二〇二五年七月六日池坊防府支部青年部花展を市民ギャラリーにて開催させていただきました。池坊防府支部は毎年アスピラート二階にて支部花展を行っておりますが、この度は青年部単独花展ということもあり、一階の市民ギャラリーで多くの方々に気軽に立ち寄っていただこうと利用させていただきました。

この夏は異例の早さの梅雨明けとなり、当日は大変な猛暑でした。七夕飾りの笹をロビーに飾り涼しさを演出し、ご来場の方々に冷茶をふるまい、ひと息ついて市民ギャラリーへお迎えし、ゆつくりいけ花鑑賞していただきました。

文化協会事務局の方には事前に宣伝からサポートいただきスムーズに運営できたこと、そして二〇〇名余りの方に来場いただいたことに感謝いたしております。

日本伝統文化いけ花の継承を担う池坊として、多くの地域の方々に花にふれあう機会をお届けできるよう、文化活動を支えてくださるこのような場を今後も利用して参りたいと考えております。



浴衣の帯結び展を開催して

着物の会 代表 多田 悦子

「和装を身近に」をテーマに、令和七年七月二十五日（金）から七月二十七日（日）までの三日間、市民ギャラリーをお借りして、浴衣の帯結び展を開催させていただきました。

作品は、市民教養講座で着物の着付けを学ぶ四教室が合同で、日頃のお稽古の成果発表として、それぞれの帯の柄や素材を活かしたオリジナルの帯結びを、一人一作品、約五十点を展示しました。

三日間を通じて、多くの方にご来場をいただき、「和装には触れる機会が少なく、このようなイベントで気軽に観ることができ興味を湧いた」「帯の結び方がいろいろあることが分かり面白かった」「帯の結び方などお伝えし、これからは安心してお出掛けをしていただき、浴衣で過ごした一日が心に残る素敵な夏の思い出となるよう今後も続けて行ければと思っております。

また、期間中に開催された「防府総おどり」に合わせて「浴衣の着崩れ直しコーナー」を開設し、多くの方にご利用をいただきました。

その際にお直しのポイントや、着崩れしない着方のコツなどもお伝えし、これからは安心してお出掛けをしていただき、浴衣で過ごした一日が心に残る素敵な夏の思い出となるよう今後も続けて行ければと思っております。

この展示会をきっかけに、共通の趣味を持ちながら合うことのなかった仲間が出会い、交流ができ、活動に広がりが出た事を大変嬉しく思います。

今後也有着物を通して多くの人との出会いと、地域の活性化に役立つように活動を続けて参ります。



「パステルで繋がる笑顔の色彩」

ソウルの会 立田 真

「近隣にパステルアートを普及させ御縁を広げていきたい」という願いを込め、防府市文化協会に加入し誕生したのが「ソウルの会」です。去る四月二十八日から五月五日にかけて、笑顔満開通りアスピラート一階市民ギャラリーにて「第四回ソウルの会パステルアート三人展」を開催いたしました。期間中、約四七〇名もの皆様に足をお運びいただいたことは、私たちにとって大きな喜びです。

四回目を迎えた今回は、顔なじみの皆様や作家の知人も多く、会場はパステル特有の暖かく柔らかな空間に包まれ終始笑顔の絶えない和やかな展示会となりました。

会場のアンケート用紙には、「心が癒された」「幸せな気持ちになった」「柔らかい雰囲気心が和んだ」といった、これ以上ないほど励みになるお言葉が数多く寄せられました。

また、来場者の皆様とのふれあいの一環として行ったお絵描き体験会では、「童心に帰ったようで楽しかった」「また描いてみたい」と創作の楽しさを共に過ごすことができました。

表現する側としても皆様との交流を通じて感性を刺激される、実り多き日々となり、このような発表の機会を与えてくださった皆様に深く感謝申し上げます。

これからも定期的に開催し、地域に根ざした活動を続けてまいります。



「市民ギャラリーを活用しての感想及び今後の活動」

ラベンダーの会 代表 熊安 悦子

令和七年八月十七日の日曜日、アスピラート一階「市民ギャラリー」に於いて、玉子の殻を使ってラベンダーの香りのする可愛い「ヒヨコ♡ポプリのゆりかご」作りをしました。所要時間は三十分～四十分位で気軽に参加できます。

子どもたちにもとっても人気で、ラベンダーの花を入れ、香りがするようにしました。

こうして、いろいろな年代の方たちにもアピルできる防府駅の一番近い場所でのイベントが実施できますことに感謝致しております。

広島から電車でご来場いただいた方が「イベント会場が近くて助かります。」とおっしゃっておられました。いろいろな方たちが、気軽に立ち寄り、いろいろなイベントがいつもあれば、自然と笑顔になるものと思います。

このアスピラートの市民ギャラリーがもっともっと利用率が高くなり、若者や高齢で運転免許がない方たちにもバスや電車でのお出かけもしやすく、どなたでもこの場所に来れば、安心して、ワクワクするようなイベントがいつもあるようにしたいと歳を重ねることに思っています。イベントも防府市市広報をぜひ活用させていただきます。いただき、そして、イベントのないう時は、観葉植物に囲まれた場所にテーブルと椅子が常時ある森をイメージできたら素敵だと思います。そのような空間でするイベントも楽しく楽しみな場所となるでしょう!!



「山口県立防府商工高等学校」

天神まちかどフェスタ」

商業科三年 総合実践授業「着物交流」班

令和七年十月五日（日）に天神まちかどフェスタを開催しました。

お客様に着物をおしゃれに着こなすことで、日本文化の魅力にふれて欲しいという思いで企画運営しました。

会場には様々な年代の方にお越しいただき、お客様と会話をしながらも着くずれないよう丁寧に着付けることを心がけました。終わった後に笑顔で「かわいい」や「ありがとうございませした」と言われたときにとつても達成感とやりがいを感じる事ができました。運営に一・二年生も加わり他学年と協働することで、看板作成や宣伝活動などお客様に興味を持ってもらえるよう工夫を凝らしました。

この度は会場を使用させていただき、大変ありがとうございました。室内の活動でしたが、着物姿のお客様が外を歩いているだけでフェスタを盛り上げることができていました。一年間、総合実践授業で着物交流サークルの講師の先生に教えていただいた技術を地域の方々に披露する絶好の機会でした。ありがとうございました。



メザミ展

代表 岡部 忠則

我が家での絵画教室、五年たった。文化協会からの要望があり、一人十枚以上を目標に描き上げた作品展でした。

以前は、文福で、講座、サークルとしてやっていたのですが、コロナの影響で、不規則になり、我が家のアトリエを開放して月二回の絵画教室を始めた。いつ辞めてもいい。いつ始めてもいい。一回でもいいという気楽に行われる絵画教室にした。四名で始めたが、現在六名、アクリル、水彩、油絵、具象抽象なんでもあり。基本的なものを見て描く。二時間は、あつという間にたちます。発表という場がないままに、この度、文化協会からお誘いがあり、発表会をするということになり、私の知人でパリにいた画家に、会の名称をお願いし、フランス語で仲間たちという言葉で「メザミ」という名称をいただきました。展覧会は、三日間行い沢山の方が来られ、貴重な感想、今後の励みになる言葉もいただきました。また、懐かしい人たちが集まり、話に花が咲きました。市民ギャラリーは、交流の場、懐かしい人、新しい人との交流に役立ちます。また、機会がありましたら、よろしくお願いいたします。



「モダンアート女性三人展開催報告

「地域に開かれた芸術活動の記録」

田中絵梨子

このたび、モダンアート協会の岡田博幸先生にお声がけをいただき、山口県内でモダンアートを制作する女性画家三名（桜田優子・田中絵梨子・縄田和子）による三人展を開催致しました。会期は二〇二五年十一月六日（木）から十一月九日（日）までアスピラート市民ギャラリーにて開催し、来場者数は一八五名でした。駅に隣接した立地もあり、県内各地に加え、県外から防府市を訪れた際に偶然立ち寄られた方など、新たな出会いにも恵まれました。

モダンアートという共通の枠組みの中で、それぞれ異なる表現の作品を会場いっぱいに表示できたことは、この三名だからこそ実現できた展覧会であったと感じております。また、絵画展示に加え、キーボードと歌のコンサート、雅楽演奏会も実施し、幅広く芸術に親しんでいただける機会となりました。

ご来場いただいた皆様、開催の機会をいただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。市民が気軽に作品発表できる環境のありがたさを実感するとともに、文化協会会員の一人として、今後も地域芸術の発展に貢献してまいります。



「三本の矢 公演を終えて」

赤川 修司

十一月二十三日、二十四日、光圀明、トーキョーライヴ、三本の矢と題して、子供オーディション（ミュージカル仕立てのお芝居）、前回も演じた水戸黄門漫遊記、まんじゅう怖い（落語）、羽衣（能を現代語訳）にしたものを演じました。

演じることに対しては、その日の調子に多少、左右されますがそれなりに出来ると思ってやっています。今回は二回目なので、よりそう思いました。

只、お客様を呼ぶことは大変苦労しました。入場無料といえども時間を割いてお越し頂けるので前回に続き、また来られた方には本当に感謝で頭が上がりません。チラシを配って頂き、自分でもいろいろ配りました。SNSでも発信し、tysのテレビにも出演しましたが祝日の月曜日の十一時の会は一人しか来られませんでした。

一月十六日から始まった、市民ギャラリー写真展に行きました。目をつぶっている写真が多く、ビジュアル的にいろいろ考えさせられました。そこで、集客、ビジュアルを考えてYoutubeのショート動画を始めました。「前略、ダイキ」です。試行錯誤を繰り返し挑戦していいこうと思います。



7.5hz (ナナハンヘルツ)

FIVE EXHIBITION展

代表 永田 好人

防府市で活動するアーティスト集団ナナハンヘルツは、地域の芸術文化の振興と育成をコンセプトに、それぞれの立ち位置で今一度芸術文化の重要性と役割を見直し、地域社会に対してアートの素晴らしさを伝えるために、市民ギャラリー三周年記念イベントにてナナハンヘルツファイブエキシビジョンを開催させていただきました。五人の様々な作家が自由な発想と表現で共鳴し、地域に感性の波動を発信しました。

市民ギャラリーに来場される方々が感動されるような空間の演出と、縁を結び、ふれあい語り合いました。来場者は七〇〇名でした。



日韓親善芸術交流展

山口県防府市日韓親善協会 坂井 譲

日韓親善芸術交流展が韓国春川市で令和七年十一月一日から十一月三日まで行われました。その作品木版画絵画写真四十点を里帰り展として令和七年十二月十九日から十二月二十一日まで開催しました。「市民ギャラリー」のホワイートルームでの展示で作品の見栄えも良く、穏やかでやすらぎさえ与えてくれました。

私達は日常生活の中で脳が疲れているときは、過去の後悔や未来の不安に思考が引つ張られがちですが、そうした雑念を一度にリセットすることができるのが、絵画や写真などの芸術作品であり、それらを整えてくれるのが市民ギャラリーだと思います。ある好きな作品に視点を向けることで自然と呼吸や感覚に意識を集中させる場を提供していることになりました。

深く呼吸しながら「いま自分が何を感じているか」に注意を向けるだけでも、情緒的に安定してきます。時々「作品の前で立ち止まる」ことでストレス耐性や集中力の向上が期待されます。この一コマを気軽にいつでも市民に提供する事ができるのが「市民ギャラリー」の存在だと確信しております。



市民ギャラリーで初の試み

ティアラ・バレエアート 田村 梨乃

二〇二五年十二月二十四日、二十五日のクリスマス。ティアラ・バレエアートは、市民ギャラリーにて展示会&上映会、また市民スペースでミニコンサートを開催いたしました。

展示では、二〇二五年四月二十七日に行われた第十回記念公演「Clara's Dream」で実際に使用した小道具やこれまで第一回から第十回までの発表会の写真などを紹介、さらに好評だった「Clara's Dream」の上映を行いました。ミニコンサートでは、幼児から中学生までがそれぞれ一曲ずつ披露しました。市民スペースという開かれた場所では、はじめは不安もありましたが壁一面ガラス越しに広がる青空と自然光が会場を包み、これまでになく開放的な雰囲気、踊りとの融合に感動しました。

また、お客様が興味深く見てくださる姿を目にしたり、乾燥などを直接伝えてくださったり、普段の会場よりも、より近くにお客様を感じる事ができ、大変嬉しく思いました。

今回のイベントを通して、作品の世界観や創作の過程などバレエを身近に感じてもらえる事ができたのではないかと実感しております。わたしたち自身も今までとは違った表現の仕方でも作品を振り返ることができ、大きな学びがありました。

今後も新たな発信の場を大切にしながら、多くの人にバレエの魅力伝えていきたいと思っております。



アートアイランド茜ビエンナーレ二〇二六

7.5h2 代表 永田 好人

ナナハンヘルツはアートを通して地域の文化芸術の振興と育成を地域に発信し、人の心にオアシスを創りたいと願っています。時代は進化したAI社会へと変化する今、何が正しいのかも分からない未来への不安は、誰もが感じている事と思います。目で見て、言葉を聞いて、そして右脳で考え自分の言葉で話す。まさにアートの世界は今、人の心のオアシスに成り得る存在だと確信しています。

アートアイランド茜ビエンナーレ二〇二六は猫をテーマとした全国公募の展覧会でした。来場いただいた方々とのご縁と対話から生まれた物語や絆、その全てが我々ナナハンヘルツの財産と成りました。共に協力いただいた防府市文化協会の方々や関係企業の方々、そして応募いただいた方々に心から感謝いたします。

今後も、純粋な心と感性、いきいきとした生命力を育むアート活動を地域に発信してまいります。



ギャラリー・トーク 「楽しい切手の話」

山口郵趣会

二月二十一日(土)、山口郵趣会の新たなイベント「ギャラリー・トーク 楽しい切手の話」を開催しました。山口県内のトップコレクター四人を講師に迎えた講演会、二十人が参加。山口県での講演会開催は初。

第一 話は桑木正道さんの「絵画切手の楽しみ」。桑木さんは、切手展へ絵画切手の作品を出品されている。名画切手ブームもあって集めた数々の名画切手の展示品を解説しながらのお話であった。また、この講話中には池田市長もご参加いただいた。

第二 話は田邊勇さんの「船からの手紙(Paquebot郵便)、元外航路の船長だけあって手続きなども含めてPaquebotには詳しい。その専門収集は評価が高い。

第三 話は村岡博さんの「防府市の郵便『明治時代の防府宮市郵便役所ほか』、不統一印など展示されたコレクションは逸品揃い、郷土の貴重な郵便史を聞くことができた。

第四 話が梶山哲太郎さんの「郵趣におけるChatGPTの活用」。最近、郵趣家も作品のリーフづくりなどで、ChatGPTをフル活用している人が増えてきた。梶山さんのアドバイスは、最初の問いかけとして、①自分の立場を伝える、②成果物は何かを明確にする、③サポートして欲しい内容を具体的に示す、が大切。

参加者は、この講演会に参加して、多くの収集のヒントを得ることができたようだ。この成果をまとめ、第二、第三の講演会実施につなげていきたい。



「中司捷昭展」

私の祭りと協賛した同窓生達」

中司 捷昭

第一弾 私は本年八十二歳ですが、高校を卒業と同時に広島に移った。一九七六年の春付き合いのあった横田画廊の社長から、中司君四八一〇〇〇円でヨーロッパ三ヶ国廻るツアーに参加しないかと誘われ、七月初めフランス、スイス、ドイツ旅行に出発した。

初めての外国、見る物、聞く事、食べる事全て新鮮で、全国から集まったツアーの参加者皆様総勢二十数名欧州の感動を体に押し付けられて帰国、暫く現実に戻れなかった。

第二弾 小学校二年の娘を膝に抱き、フランス人作家ピエール・ブレスト作「カロリーヌとおともだち」の絵本からスイス行きに発展、次の年家族でスイスを含む三ヶ国を遊覧、立て続けに数回。二度パリの風景画で個展。

第三弾 第一人、夢中になったパリを数回遊学、同じく広島のパラック画廊の女将の強い進言で三度パリの風景画展を開催。作品展の途中、防府の我が家に移り、華城の同窓生の原田育郎氏の進言で防府市の文化協会加入、防府市文化協会の多大なる応援と、事情を知った同窓生の女性陣の応援、男性陣の手助けで私の祭りが思いも寄らぬ大きな盛り上がりを見せた。途中、何処のラジオ局、何処かの新聞社が取材したらしい。

既に来年の予定も決まっているが、更に盛大な私の祭りになるよう努力致します。



こけももの会

代表 岡村 泰子

アトリエ「こけももの会」は、絵を描くことが好きな仲間が月に一度集まって絵画制作をする会です。現在の会員は六名。この会の特徴は、会員の年齢が男女二十代から七十代と幅広いこと、そしてテーマや画材、技法に囚われず、自由闊達に制作をしていることです。

小さい絵画グループの「こけももの会」は二〇二二年に防府市文化協会に入会しました。そして、翌年、防府市地域交流センター「グアスピラート」の市民ギャラリーで「こけももの会」を開催することになりました。経済的にも余裕がないグループにとつて、無料であの立派な施設が借りられることは信じられないことでしたが、文化協会の岡崎さんからも開催にむけて、丁寧なアドバイスをいただきました。

開催を決めてからは作品の制作に一つの大きな目標が出来ました。書きためた作品をギャラリーの広い壁面に展示し、防府市長さんはじめ多くの方に楽しんで頂いた時は、それまでの活動にはない大きな感動を味わうことが出来ました。

この展覧会で経験したことが、その後の個人の制作活動に大きな影響を与えてくれたことは言うまでもありません。そして、防府市文化協会がどんな小さな団体の活動にも積極的に関わってくださいることに感謝しています。



「音楽のまち防府で

アンサンブルコンサート」

防府フィルハーモニーオーケストラ

団長 竹本 匠

二月二十二日、私達は市民ギャラリーでアンサンブルコンサートを開催し、多くの皆様にご来場頂きました。このコンサートは、多くの皆様にご来場頂きました。このコンサートは、オーケストラのような大規模な演奏会とは異なり、小編成で演奏するコンサートで、より身近に音楽を感じて頂くことができます。さらに、会場である市民ギャラリーは良い意味で小規模であるため、観客との距離が近く、当日は皆様の表情を感じながら演奏することができ、温かい雰囲気の中、素晴らしい時間を共有することができました。

防府市には素晴らしい音響のホールを有するアスピラートや、長い歴史を持ち様々な建築賞を受賞している三友サルビアホールがあります。私達は音楽のまち防府で、これらの施設を演奏会や練習で利用させて頂いておりますが、本当に幸せだと感じております。この音楽のまちで、さらに恵まれた環境で演奏できる事に感謝しながら、防府フィルはこれからも「防府のまちにオーケストラの響きを」を合言葉に、防府の音楽発展のため活動して参ります。

さて、防府フィルは、六月十四日(日)にアスピラート三階音楽ホールで「第八回定期演奏会」を開催いたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。素敵な時間を過ごしましょう！



「きらめき賞表彰を改めてふりかえる」

防府市文化協会 事務局長 岡崎久美子

令和七年度の当協会の活動は、会員をはじめ、多くの文化芸術を愛好される方々のお力添えにより、四年目を迎える市民ギャラリーの活動も年々充実され、感謝申し上げます。

さて、令和五年に当協会は、公益財団法人山口きらめき財団、理事長村岡嗣政様より『県民活動きらめき賞』の授与を賜りました。あれから二年改めて表彰状を拝見するに、『地域性豊かで多彩な文化芸術活動の振興に大きく寄与されましたよってこの功績をたたえ表彰します』と記載されていました。本年度は、絵画・華展と洋楽・邦楽とのコラボや市民スペースをも使ってバレエの発表や市民文化祭の日程とあわせて、二階の展示ホール・市民ギャラリー・市民スペースが一体となつて同時に多彩な文化芸術の発表も試み、異年令の多くの方々がお見えになり、活動の広がりを実感したところでございます。また、今年には、野島に関連した二年に一回全国応募される茜ビエンナーレ二〇二六にも共催として参加。二百二点の応募の中から入選五十七点が市民ギャラリーで展示。表彰式では、地元の金属アーティスト松村憲治様による金銀銅のメダルを作製。記念品として喜んでいただくとともに、県内外の方々や関連企業等との新しい出会いにより、今までと違った経験は、自らが多角的視点で物事を捉える事の重要性を実感し、成長させて頂いたことに感謝申し上げます。

令和八年度は、防府市制施行九十周年記念を迎えられると、各会員の皆さまや関係者のご支援をいただきながら、例年とは違う新しい活動を取り入れ、当協会としても微力ながら、きらめき賞の榮譽に値する活動が展開し続けられるよう努力して参ろうと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

市民ギャラリー三周年 陶芸五十周年記念

大井 正則
美智子



記念特別展

7.5hZ

FIVE EXHIBITION 展



お知らせ

令和七年一月六日付から、防府市文化協会は、防府市役所新庁舎本館五階文化振興課内に無事移転し、一年がたちました。

令和八年度の会員の入会手続き及び市民ギャラリーの使用許可申請書の提出等は、こちらへどうぞお越しください。お待ち致しております。

詳細につきましては、文化振興課が作成されておられる当協会のホームページをご覧ください。

市民ギャラリーでの活動の輪が益々広がり、新しい出会いと発見が、生きる原動力となりますよう、皆さまの益々のお力添えを頂きますようよろしくお願ひ申し上げます。

編集委員

山田 史生 石川 近利
石川 雅子 岡本早智子
岡崎久美子

発行

〒七四七一八五〇一
防府市寿町七番一号
防府市役所 本館五階
文化振興課内

TEL 〇八三五（二六）六八四一
FAX 〇八三五（二三）四三〇〇

メールアドレス

hofubunkyo@tiara.ocn.ne.jp